

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 金沢市立高尾台中学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☒ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 9 2 1 - 8 1 5 5

石川県金沢市高尾台1丁目128番地

E-mail takaodai-j@kanazawa-city.ed.jp

Website http://cms.kanazawa-city.ed.jp/takaodai-j/

幼児児童生徒数 男子 3 3 8 名 女子 3 0 2 名 合計 6 4 0 名

幼児・児童・生徒の年齢 1 2 歳 ~ 1 5 歳

2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月 ~ 平成 3 0 年 3 月

※報告書提出時点~平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度+活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

(記入例)

当校は、「金沢の魅力発見！！」を活動テーマとして、E S D を未来へつなげる伝統工芸と景観保全と捉え、E S D の実践を通して持続可能な社会の担い手となる人材の育成を目標とした。

具体的には、総合的な学習、地域とのつながりのある行事柱に、①伝統工芸に関わる学習、②景観や環境の保全に関わる学習、③地域とのつながりを生かした教育を行った。

① 伝統工芸に関わる学習、②景観と環境の保全に関する学習

金沢市では、市の共通の取り組みとして「金沢ふるさと学習」を実施している。そのゴールは、世界の交流拠点都市金沢について考え、金沢のまちづくりの提案を行うことである。この取り組みは、2年生の総合のカリキュラムの中に位置づけて実施した。3年の修学旅行で訪れる京都市、奈良県の明日香村と比較して整理、分析し、金沢のまちづくりの提案に深みを持たせることが学習の主眼である。大テーマに基づき各自でテーマを設定して分析し

た。生徒が設定したテーマと、これからの実戦に向けての記述は以下の通りである。

【タイトル・サブタイトル】

- ・「未来につながる金沢の景観の保全にむけて」

～時を超えて受け継がれる金沢の歴史～

- ・「金沢と京都の環境保全の課題」～課題はちがっても取り組み方は？～
- ・「金沢と奈良の歴史の保存」～歴史ある町並みを残すための工夫～
- ・「金沢と奈良の条例」～環境・景観・県民のための取り組み～
- ・「金沢と奈良の環境保全の取り組み」～市民のよりよくする活動～
- ・「クラフト創造都市金沢」～金沢と京都のちがい～
- ・「金沢の伝統工芸の未来に向けて」～なぜ金沢の伝統工芸品は売れないのか～

【これからの実践にむけて】

- ・文化遺産などの財産や命を守るために、私たち市民が自主的に災害につよいまちづくりに協力したい。
- ・ルールに沿った京都の街づくりを修学旅行の時に調査し、もう一度金沢について考えたい。
- ・特産品と工芸品の関わりをさらに調べたい。そして、ふるさとの工芸品がこれからも色濃く残っていくように取り組めることを考えたい。
- ・いろんな計画を立てる時に、過去を大切にし、未来を見据えて考える力が必要になるとわかった。

③地域とのつながりを生かした教育

本校区には、県立ろ学校があり、定期的に授業交流などを行っている。その一環として、本校の合唱コンクールで、ろう学校の生徒が和太鼓の演奏を披露する。合唱コンクールは、本校区の地域全体で行われる伝統的な行事である。毎年10月に金沢歌劇座にて行われている。1学期から交流を通してきたろう学校の生徒が演奏し、会場全体が太鼓の振動に包まれる瞬間は、感動する場面となった。また、普段鑑賞することの少ない日本の伝統的な和太鼓を鑑賞する貴重な機会にもなっている。



①② 29の写真 (キャプション)



③の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

金沢市教育委員会策定「金沢ふるさと学習」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合のカリキュラムを中心に位置づけを行っている。金沢市全体で行っている、「金沢ふるさと学習」の中で、ユネスコが掲げる ESD 教育の視点を取り入れて実施している。

昨年度までは、生徒会活動や地域との関わりを中心に ESD 教育を行ってきた。今年度は、認定初年度ということで、指導内容や指導方法を新たに定めた。全生徒が活動に取り組む「金沢ふるさと学習」に主眼を置き、郊外での現地調査（金沢自主プランや関西修学旅行等）につなげ、最終的に地元金沢にいて持続可能な街づくりを考えることとした。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

今年度が認定初年度なので、引き続き体制づくりをしていく必要がある。ユネスコスクール推進の担当教員を決めることで円滑に、積極的に活動に取り組める体制を作っている。また、カリキュラムの中にユネスコスクールの取り組みを位置づけることで、毎年組織的、継続的に取り組める形にした。2年生の総合に重点を置いているため、年度ごとに担当がかわっても取り組める体制を、現在構築中である。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

金沢市が行っている、代表生徒による「金沢ユネスコスクールこどもサミット」をチェックの場として活用している。発表は生徒によるものであるが、各校の取り組みがわかりやすくまとめられており、意見交換もあるため、年度内の取り組みや、来年度に向けての課題の手がかりをつかむことができる。ただ、本年度は大雪のために中止となってしまった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

個人で調査したものを、学年（クラス内発表や学年集会）の形で一人ひとりが発表する場が、最初の発信の場である。そこでの議論をもとに、金沢市の「金沢ユネスコスクールこどもサミット」で発表する。
また、「金沢市ユネスコスクール加盟校取り組み概要」に各校の取り組みを発信している。ここでは、その年度に行った内容を生徒の様子とともに発信している。意見などはもらえないが、他校のものを参考にすることによって、次年度の活動の見直しに役立てている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（２００字程度） ※チェック事項 2-3 に対応

ESD 教育の一環で、生徒が関わる形での活用は行っていない。今年度は、6月に行われたユネスコスクール担当者の会議で、アジア文化センターのプログラムスペシャリストの方のお話を聞いた。次年度以降、本校の活動内容と照らし合わせながら、外部との協力もおこなっていききたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度） ※チェック事項 2-4 に対応

金沢市内の交流・ネットワーク形成としては、教員間は担当者会議、生徒間は「金沢ユネスコスクールこどもサミット」で行っている。
また、全国ユネスコスクール研究大会や、ユネスコ・アジア文化センターが発行している情報誌や交流会などのお知らせを適宜、生徒配布や教員の回覧を行い、ネットワーク形成の土台としている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

・教員

ESD 教育の視点を取り入れることで、100年後の金沢について考える「金沢ふるさと学習」のゴールを明確に指導することができるようになった。

・児童・生徒

修学旅行や金沢自主プランの活動を発展させ、未来の金沢を考える視点をもつことができた。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度は、平成29年度（認定初年度）の活動を継続して行う。具体的な内容は以下の通りである。

- ①「金沢の魅力発見！！～未来へつながる伝統工芸や環境保全～」を主要テーマに、2年総合「金沢ふるさと学習」に重点を置いて活動する。

時期：2年 11～12月

学習のねらい：修学旅行での現地調査に向けての準備調査。

持続可能な街づくりの視点を養う

- ②ろう学校との交流を中心とした地域とのつながりを生かした教育の実施。生徒間交流に加え、伝統楽器の和太鼓の鑑賞を行う。

時期：5～1月（定期的な授業交流と、10月の合唱コンクール参加）

学習のねらい：「共生」できる生きた力を育む。

伝統的な和楽器を鑑賞する。